

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

模擬授業の評価および学級活動の授業を観たことによるレポートで評価した。全般的に高い評定をつけた。

授業内小テストの点数に、期末の論述テストの点数を加えたもの。また別に出題したレポートを提出したものについては、その内容に応じて点数を加算している。

最終テストやレポートは40%程度であり、60%は毎回のコメントシートや受講態度からと、平常点を大きくしている。

模擬授業を観察した学生に、あらかじめ用意した評価シートにおける5項目に5段階で評価点とコメントを記入してもらい、その結果に基づいて最終的な成績を決定している。

教職の意義への理解や養護教諭の職務・役割への知識・理解の修得、力量形成に意欲的に取り組む態度について、筆記試験及びレポート内容、出席状況などを基に評価した。

全員が年少、年中、年長のクラスに入り、保育経験をしているが、実習後には体験・学習内容、疑問点、感想、観察内容などをレポート用紙にまとめると共に、それに基づいて配属クラス毎にディスカッションを行う。また、ディスカッション内容は毎回皆の前で発表し、各学年、各クラスでの遊びの内容や子どもの様子等をシェアリングしている。成績結果は主として提出されたレポート内容に基づくものであるが、出席状況や実習時の態度等、特に問題が見られる学生においてはその点も成績に加味されている。

授業参加度(コメントの内容)と発表および発表後の考察と今後の抱負のレポート。さらに、教科外活動に関する方針をレポートし、児童生徒への啓発ポスターなども成績基準となっている。

レポート2個、70%。
毎回のリアクションペーパーなど、30%。

毎回の講義でワークシートを使い、学生が考えやメモを残せるようにした。それを毎回集め、記述内容を5段階で評価し、14回行った。ワークシートの最後には、意見や感想を書かせ、次回の講義に生かした。第15回では、それまでの内容のまとめを記述させ、内容の深まりを評価した。最終試験で大切なポイントを問う問題を出し、15回までの累積した点と合計して総合評価を行った。

授業のふり返りを毎回記入させ、学びの深さを数値化(30%)、課題レポートを2回課し(30%)、さらに定期試験を行う(40%)ことで学業成績を算出した。事前に学生にも、この評価方法を知らせておいた。

- ・毎時間ごとの授業感想をふまえ、授業のねらいを達成しているかを判断する。(45%)
- ・グループごとの事例検討に対する取り組みの姿勢や考え方を判断する。(10%)
- ・定期試験により、本講義のねらいを達成しているかを判断する。(40%)
- ・15回の講義プリントや資料などを保管し、復習に心がけている。(5%)

・シラバスに記載した内容の通り、中間テスト+期末課題レポート(指導案)+毎授業時に提出するリフレクションペーパーの内容を数値化することで、厳密かつ客観的な評価を行っています。

定期試験(記述式)、授業への取り組み(観察、毎回のリフレクションペーパー)、提出物(授業づくり実践に関わるもの)、出席をそれぞれ点数化し、授業づくりの理論や指導法に関する理解力を総合的に評価した。

積極的な授業態度や発表内容・姿勢、授業理解を確認するレポートやテストの具体的な内容など

- ・最終レポートの、記述の正確性、内容の明確性、考察の深まり。
- ・授業全体を通しての参加状況。

パネルシアターの製作と実演、絵本・紙芝居の実演、絵本ノートの作成について、「大変優れている」～「学修が不十分」まで6段階程度で評価している。(計90点)
その他、授業態度として、出席回数、参加態度、発言内容などで評価している。(10点)

授業への参加度及び授業内外レポート(50%)、期末の試験(50%)を基準として評価した。

平常授業で提出を求める小レポート、出席点、および定期試験の筆記試験成績を総合的に判断をした。

定期試験やレポートの成績、授業への参加度、授業への出席などにより総合的に評価した。

・毎回のふり返しシートの記述や試験(全授業を振り返ってみて)自分がどう変化したかを、論理的に論述しているかを基準としている。

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験合格者は $(100 - \text{本試験の得点}) \div 4$ を本試験の得点に加えた点数を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60) \div 4$ を60点に加えた点数を、成績として報告した。

授業への参加度

レポート評価。課題の指示に従って、形式を整え、考察に関しては広く深く考察しているか。